

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 多治見北高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年9月9日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 多治見北高等学校小会議室
- 4 参加者

会長	小林 雄一	愛知工業大学教授
副会長	水野 知久	東濃子ども相談センター所長
委員	長壁 和恵	会社員 元PTA役員
	加藤 恵子	消費生活協同組合理事 元PTA役員
	加藤 真佐美	PTA副会長
	近藤 重利	地域住民 自営業者
学校側	白石 秀史	校長
	山下 サツキ	事務部長
	西田 智子	教頭
	市川 学	教務主任
	岩三 大介	生徒指導主事
	前川 泰信	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校祭見学
- (3) 学校運営に関する意見の申出に対する回答について
- (4) 学校評価アンケートについて
- (5) 意見交換及び協議

意見1: 進路説明会で行なっていた説明を動画で配信するようにしたが、効果の確認が難しいという話があった。視聴したかどうかを確認するような質問などを用意するとよいのではないか。

意見2: 上の子の時は保護者対象の説明会にたくさんの保護者が参加していたが、下の子の時は、参加する保護者が少なくなっていた。動画を見ないのは、仕事をしていて忙しくて時間がとれないのと、必要性が分からないためなのではないか。動画を見て疑問に思ったことを聞き取ることなどができるとよい。

意見3: コロナ禍になり、保護者が学校に集まることがなくなったが、それ以前は保護者同士の交流の中で進路についても情報交換ができていた。動画で配信された内容は本当に大事なことだったが、その大切さがわからないので動画を見ていない保護者がいるのではないか。

意見4: 学校評価アンケートで「わからない」が多い項目があるが、それは情報が伝わっていないということなので、伝え方の工夫をするとよい。保護者に対して生徒が細か

く報告しているわけではないので、保護者の「わからない」は負の評価ではなくて、お任せしているという意味でもある。「わからない」よりも否定的な評価の多い項目について確認していくとよい。

- 意見5：今回、学校祭の様子を見て、デジタル化やICT化への対応は生徒が先行していると感じた。仕事のやり方なども急激に変化しており、生徒にどう教育していくのかを考えていくのは大変だと感じた。
- 意見6：生徒が生き生きと活動している姿が印象的だった。様々な活動の場面を設定することで生徒が自分を生かせる場面を作ることができる。
- 意見7：生徒は勉強や受験がたらくても学校が楽しいから行ける。教員の熱は生徒に伝わっている。
- 意見8：生徒の性格によってあいさつを積極的にできる場合と消極的になってしまう場合とがある。社会に出て必要な場面になれば自覚して行動するようになる。学校は返事がなくてもあいさつの言葉をかけるなど必要性をきちんと発信し続けることが大切である。
- 意見9：オンライン配信で学校祭のステージ発表を見て、行事が復活できて本当によかったと感じた。生徒たちは制限のある中でも、時代に乗って楽しんでいた。
- 意見10：学校評価アンケートについて地域の校長会などで比較や交流ができると本校の特徴が見えるのではないか。
- 意見11：塾では学校とは違う友人関係ができたり、進学に関する情報を得たりすることができる。アンケートの結果では否定的な評価が多いように見えるが、学校の指導が不十分だから塾が必要だということではない。

6 会議のまとめ

学校評価アンケートでは、肯定的な評価を得た項目が大部分であったが、一部の否定的な評価が多かった点について検討していく。これからもできる形を考えながら行事等をおこなっていけるとよい。コロナ禍で多くの行事が中止になったり延期になったりしたが、そのようななかでも教員のITスキルが向上し、教育のやり方が大きく変わったことについては、進学校として今後に生かしていくことが大切である。